

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	豊かな人間性や自尊感情を育成する人権教育 ～互いの違いやよさを認め合い、 相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成～
----------	--

○調査研究のテーマを設定した目的

本県が定める栃木県人権教育基本方針に基づき、地域の実態を踏まえ、人権尊重の精神の涵養を育む教育の充実を目的として、上記調査研究のテーマを設定した。詳細については、以下のとおりである。

益子町においては「第3期ましこ未来計画」において、まちの将来像を「幸せな協働体（共同体）・ましこ」とし、学校教育目標の1つに、「しんせつで温かい人（徳）」を掲げ、個人の人権を尊重し、互いに敬愛し、規律と礼儀を重んじる正義感の強い児童生徒の育成を目指している。また、昨年度から人権教育研究指定校事業の指定を受け、人権教育の視点を学校課題に位置づけ、全校体制で人権教育の推進に取り組んできた。

本校は、明るく素直で学習に真面目に取り組むことができる児童が多い。令和4年度とちぎっ子学習状況調査質問紙結果では、昨年度の結果と比較し、「先生は学習のことにについてほめてくれる」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分には、よいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」などの項目で改善が見られた。しかし、学年間の差が大きく、学年が上がるにつれて肯定的な回答が減少している。そのため、昨年度に引き続き、自尊感情を高める手立てが必要である。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」「自分はクラスの人役に立っていると思う」の質問についても同様の傾向が見られ、互いの違いやよさを認め合える人間関係づくりや学習活動、環境整備が必要であることから本テーマを設定した。

○調査研究の概要

- ①互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる学習活動づくり
- ②互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる人間関係づくり
- ③互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる環境づくり

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

益子町立益子小学校

○これまでの研究指定等の状況

令和4年度人権教育研究指定校事業

○学級数

14学級（うち特別支援学級：2学級）

○児童生徒数(R6.1.1)

全児童数：285人

○URL

<https://schit.net/mashiko/esmashiko/>

○指定理由

益子町立益子小学校は、町のほぼ中心に位置し、平成19年度の学校統合により2つの地区が統合した学校である。益子町は、陶器の町として我が国はもとより世界的に知られており、益子小の学区内には多くの窯元があり、益子焼に関わっている保護者も多い。春と秋に開催される陶器市には販売店約50店舗の他、約550のテントが立ち並び、伝統的な益子焼にくわえ、地元の農産物や特産品の販売も行われ、外国人も多く訪れている。その際、地元の高校生が障害者施設のパン販売を手伝うなどのボランティア活動を実施している。一昨年、昨年とコロナ禍により陶器市が開催できない年が続いたが、WEB上で陶器市を開催するなど、ICT技術を活用して陶器の街を世界にアピールしている。

また、益子町では、いち早く教育課程特例校による小学校外国語活動（1・2年）を実践したり、1人1台のタブレットPCを導入したりするなど、国際化・情報化に向けた教育を推進し、文化や言語といった違いを認め合って生活していこうとする資質や能力の育成を図っている。そして、これらの教育活動の充実を図るために、外国人やインターネットによる人権侵害などの人権問題に対する正しい理解を深めることも重要である。くわえて、令和4度とちぎっ子学習状況調査質問紙結果から、特に益子小学校の5年生に自尊感情が低い傾向が見られることから、その対応が急務となっている。

上記のことから、本研究のテーマに迫るために本校が適切であると考え、研究校に指定した。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題1つに◎印を付与	
①子供	○
②女性	○
③高齢者	○
④障害者	
⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	○
⑦外国人	◎
⑧- 1 HIV 感染者等	
⑧- 2 ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他（ ）	

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

本調査研究を有意義なものとするためには、まず、人権教育指導者の資質の向上が不可欠である。そこで、本県教育委員会が設置する運営協議会委員等を対象として、「人権教育担当者スキルアップ研修」を開催する。なお、本研修は、参加体験型の手法に主眼を置いた内容を予定し、事後に参加者が研究指定校で研修成果を教育活動に反映させていくことを想定している。

また、調査研究を円滑に推進するため、地域と学校が連携した人権教育の推進を図り、保護者や地域住民の人権教育に対する理解を深めるようにする。そのため、保護者等が人権について考えやすい身近な内容で構成した啓発資料を県教委が作成し、学校を通じて保護者等に配布する。内容は、保護者が人権問題に関心を深めるきっかけとなるよう、保護者にとって関心の高い「子供の人権」を中心に掲載する。そして、本校においては以下の3つの活動を中心に人権教育を推進し、研究テーマに迫ることとする。

- ① 互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる学習活動づくり
 - ・人権尊重の視点に立った各教科の授業づくり
 - ・他者を尊重する学習規律の育成
 - ・人権感覚の育成や人権課題に対する知識・技能を習得するための取組
 - ・直接的指導や間接的指導の工夫（差別解消を図るための資質能力等を育む授業の展開）
 - ・第6学年体育（保健領域）において、本県作成のDVDを使用したハンセン病に係る授業の実施
 - ・道徳教育の充実
 - ・外国語活動や外国語科、総合的な学習の時間等を中心とした外国人の人権に関わる活動の充実
 - ・情報教育（デジタル・シティズンシップ教育）に関する教育の充実
 - ・人権課題関連講師による人権教育学習の実施
- ② 互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる人間関係づくり
 - ・基底的指導の充実
 - ・学級、学年における人権感覚を高める活動の充実
 - ・異学年、縦割り班による交流活動（共遊の時間）の充実
 - ・外国人や高齢者とのふれあい活動（ボランティア活動、自然体験活動）
 - ・学級活動の計画見直しと充実
 - ・児童会主催による活動（人権集会等）の充実
- ③ 互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる環境づくり
 - ・人権教育におけるカリキュラム・マネジメントの実施

- ・人権感覚を育む環境整備（人権コーナーの工夫と充実）
- ・教師自身の人権意識に関する資質を高めるための研修
- ・家庭、地域との関連を図った取組や広報活動
- ・定期教育相談・月例いじめアンケート等での悩み相談の充実

○実施方法

①授業研究部

○研究テーマに迫るための年間指導計画の見直し

- ・人権教育の重点課題に関連した教育活動を洗い出し、計画的・効果的な指導を行えるよう、全職員による年間指導計画の見直しを行い、カリキュラム・マネジメントの推進を図った。
- ・各教科、特別の教科 道徳、特別活動（学級活動）および総合的な学習の時間について、相互の関連を確認するとともに、年間指導計画に明示し、教科横断的学習や課題解決型学習の推進を図った。
- ・年間指導計画に参加型・体験型・協力型の学習活動を取り入れていく単元や授業を明示し、計画的に実施した。

○校内共通の指針の作成（学習のルール、学習規律を定着させる指導の工夫）

- ・話し方・聴き方についての掲示物を配布し、活用した。
- ・教師の授業等で配慮したい人権尊重の視点チェックリストを配付し、活用を図った。

○研究授業の実践

- ・特別活動(2)（6 学年）「SNS の使い方」の授業における直接的指導
- ・特別活動(1)（5 学年）「2 学期がんばったね会をしよう」の授業における間接的指導
- ・算数 4 学年「角」・2 学年「はこの形」の授業における間接的指導
- ・ICT 機器を活用し、学校と高齢者・障害者福祉連施設をオンラインで結び、学習会や交流会を実施した。

②環境教育部

○学習環境の整備

- ・人権掲示コーナーの充実
- ・振り返りカード、言われてうれしい言葉などの掲示
- ・学習成果物等の掲示方法の統一ルール作り

○言語環境の整備・充実

- ・話し方・聴き方のルール作りと発達の段階に合わせた指導の実施
- ・話合いの仕方などのマニュアル作成と発達の段階に合わせた指導の実施

③啓発・調査部

- ・職員研修の実施（外国人の人権・学級活動・外国籍児童や保護者への対応）
- ・学校だより、学年だより、学級だより等の作成及びホームページの更新

- ・ 児童、保護者アンケートの作成、実施、集計、分析
- ・ WEB Q-U を活用した学級経営の推進

4. 検証・評価・改善・普及

【検証・評価方法】

- 知識的側面では、6月と1月に児童アンケート調査を行った結果、「日本や世界には様々な人権問題があることを知っている」という問いに対し、「知っている」と回答した児童の割合が年度当初の69.2%から86.8%に増加した。高齢者の福祉について学習してきた中学年では、高齢者の人権問題について知っていると回答した児童の割合が25.0%から81.3%に増加し、アイヌの人々について学習した学年では知っていると答えた児童の割合が50.0%から85.8%に増加した。
- 価値・態度的側面では、同調査「クラスや学校をよくするために、何をしたらよいか考えている。」という問いに対し、「そう思う」と回答した児童の割合が、年度当初の48.2%から本年度52.8%に増加した。また、様々な人権課題を取り上げ、体験活動や課題解決的な学習を実施したことで、課題を解決していこうという意識が高まってきた。
- 技能的側面では、同調査「友達や家族の気持ちを考えて生活している」に対し、「そう思う」と回答した児童は60.1%から64.3%に増加した。また「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしている」に対し、「そう思う」と回答した児童の割合は61.8%から71.4%に、「よりよいクラスや学校にするために、友達や先生と協力して行動している」に対して「そう思う」と回答した児童の割合は63.8%から66.2%に増加した。人権に関する学習を通して、問題を捉え、解決に向けて自分にできることを考え、実際に行動する児童が少しずつ増えてきている。
- WEB Q-U 分析結果によると、学校生活満足群に属する児童の割合が6割を超えた学級は14学級中4学級だったが、学校全体としては1回目の48.8%から2回目は63.1%に増加しており、全体としては改善が見られた。
- 教職員の振り返り「研究に取り組んで学んだこと（自由記述）」では、「日々の基底的指導の大切さと教師自身が人権意識を高めることの大切さを学んだ。」「普段の授業の中で、どのように三指導を行っていけばよいか具体的な手立てを知ることができた。」などの記述が見られた。ワークショップや授業研究会など職員研修を充実させたことにより、教師の人権意識の高揚が図られ、具体的な指導の手立てについて確認することができた。
- ▲「自分にはよいところがある」という問いに対し、「そう思う」と回答した児童は47.2%から43.1%に減少した。ただし「どちらかといえばそう思う」も含めた肯定的回答の割合は84.0%から87.0%に増加している。今後も児童の自己肯定感を高めるための手立てを講じていく必要がある。

▲「日本や世界には様々な人権問題があることを知っている」という問いに対し、「知っている」と回答した児童の割合は増加したものの、肯定的回答（そう思う・どちらかと言えばそう思うの合計）の割合は 86.5%から 81.4%に減少し、知っている児童と知らない児童に二極化している。各学年の発達段階に応じて、様々な人権課題を取り上げ、どの学年のどの時期に実施するか再検討することで、正しい知識と認識を深めるようにしたい。

【普及】

- ・公開研究発表会を開催し、学級活動 2 授業、算数 1 授業を公開した。また、本校の研究概要を発表することで、他の学校への普及・啓発を図った。
- ・人権だよりや学校ホームページ等で実践内容を公開した。学校ホームページから研究で作成・使用した資料のダウンロードができるようにした。
- ・今後も PDCA サイクルを回し、年間指導計画をより実態に応じた使いやすいものに改善していく。また、実践した取組をホームページ等で発信し、広く普及に努めていくことを考えている。

5. 人権教育に係る年間指導計画

第1学年 人権教育年間指導計画 ※重点化を図った項目【▲感受性】・人権問題【◆子ども】【◆外国人】◎:直接的指導

月 項目		4	5	6	7	8・9	10	11	12	1	2	3
各教科	国語		▲どん　こと　どん (感)			▲かいから(感)	▲おはなしをよもう サラダでげんき(感)		▲こえに出してよもう おとうとねずみチロ (感)			▲スイミー(感)
	社会											
	算数											
	理科											
	生活						▲ひろがれえがお(感)			◆もうすぐ2年生(感)		
	音楽		▲わらべうた(感)									
	図工											
	家庭											
	体育			▲鬼遊び(感)								
外国語活動	◆あいさつをしよう 【外】(知・感)					◆果物を言おう【外】 (知)			◆いろいろなものをみ つけよう【外】(知)			
特別な教科 道徳		▲おせわになっている ひと(感)	▲だれにでもおなじよ うに(感)	▲ともだちっていいね (感)	▲しんせつはいいきも ち(感)		▲みんなとなかよく (感)	▲しんせつにすること (感) ▲だいすきなかぞく (感)				
総合的な学習 の時間												
特別活動	学級活動	▲1年生になって(感)					▲知らない人に連絡先 を教えない【イ】			▲感謝の集いへの参 加の仕方を考えよう (感)	▲6年生に感謝をし よう(感)	
	児童会活動 (交流活 動)			▲☆児童集会 (知・判・感・技・実)	▲☆児童集会 (知・判・感・技・実)	▲☆児童集会 (知・判・感・技・実)	▲☆児童集会 (知・判・感・技・実)	▲☆児童集会 (知・判・感・技・実)	▲◆☆人権集会【子・ 人】 (知・判・感・技・実) ▲☆児童集会 (知・判・感・技・実)	▲☆児童集会 (知・判・感・技・実)	▲☆感謝の集い(感・ 実) ▲☆児童集会 (知・判・感・技・実)	▲☆6年生を送る会 (感・実・技)
	クラブ活動											
	学校行事	▲入学式(感) ▲身体計測(感)		▲新体力テスト(感)		▲運動会(判・感・実)	▲遠足(判・感・実)	▲持久走大会(感)				▲卒業式(感・実)
その他	児童指導 (月別指 導)	きまりを守り、楽しい 学校生活をおくろう。	楽しく安全に生活し よう。	室内での過ごし方を 工夫しよう。	進んで校舎内外をさ れいにしよう。	規則正しい生活をし よう。	安全に心がけ体力つ りをしよう。	仲よく助け合おう。	礼儀正しくしよう。	寒さに負けずがんば ろう。	係や当番の仕事をか んばろう。	一年間の総まとめをし よう。
研修	教職員研 修 (現職教 育)	研究推進会議	研究推進会議 職員研修(1)		職員研修(2)	研修推進会議	指導案検討会	授業研究会(1)		指導案検討会	授業研究会(2)	研究推進会議
啓発	保護者・地 域に関す る内容	授業参観 保護者会 学校・学年だより	家庭訪問	授業参観 保護者会 第1回アンケート実施	人権絵画作品募集 個人懇談	個人懇談 人権だより				第2回アンケート実施 授業参観 保護者会	人権だより	

◎直接的指導 【女】女性 【子】子ども 【高】高齢者 【障】障害者 【同】同和問題 【外】外国人 【H】HIV感染者等 【犯】犯罪被害者等 【イ】インターネットによる人権侵害 【災】災害 【ア】アイヌの人々

【刑】刑を終えて出所した人 【性】性的指向・性同一性障害 【ホ】ホームレス等 【拉】北朝鮮当局による拉致問題 【人】人権一般

「育てたい資質・能力等」 (知)…知性 (判)…判断力 (感)…感受性 (技)…技能 (実)…実践力

☆参加型・体験型・協力型の学習活動

■教科等横断的単元

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

